

第29回清瀬市みどりの環境保全審議会（要旨）

[日 時] 平成30年10月9日（火） 10:00～16:00

[場 所] 現地視察、清瀬市役所 第2食堂

[出席者] 委 員 8名
事務局 3名 水と緑の環境課

[議事次第]

1. 現地視察
2. 視察総括
3. その他

[配布資料]

次第、資料（第3回視察先の図面、タイムスケジュール、保存樹木の解除）

《2. 視察総括》

第三中学校

【北側通用門横のサクラ7本】

擁壁など構造物との関係、樹木が健全かどうか、あえて伐採せずに保護する理由（卒業記念・名木など）があるか、という視点で考える。

樹形が崩れている、腐朽菌が入り芯まで弱っている、残して保護対策を考えても費用対効果が低いほか、近くの擁壁まで根が伸長してクラックの原因になっているという問題もある。このため、全て伐採したほうが良い。

- ・「根元付近で胴切りすれば、大きさを抑えられるし、萌芽更新により花も早く咲く」という意見もあったが、上記の観点から、「萌芽を生かした場合、伸びた徒長枝が大きくなると裂ける可能性が高い。一番懸念しなくてはならない根が擁壁のほうへ広がってしまう可能性もある。伐採も仕方なし、という結論に達した。

その他の意見

- ・植替えを考えるなら、少なくとも擁壁から5m以上離して、大きくならない木、例えばエゴノキ、アカシデなどを植える案もある。
- ・サクラを切った後の枝を広げられるスペースにシンボルツリーを1本植えたい。

【北東側のイチヨウ3本について】

- ・どんな機能のためにこの狭い空間に3本も植えたのか。擁壁を傷めるし、プールや北側の畑とマンションへの落ち葉、日影になる。伐採して他の木を植えるのが良い。
- ・生かしても1本がせいぜいで、差し当たり強剪定、今後も定期剪定が不可欠。

【校舎南側のメタセコイヤ】

- ・芝山小のように、手が付けられなくなるほど大きくなるので、放置しない方がよい。

【校庭周りのサクラ、イチヨウなどの並木について】

- ・部分的にはサワラも入り、狭い間隔で植えられ、サクラの生長が悪い。道路や住宅への落ち葉も問題になっているので、イチヨウはバランスを見て伐採。
- ・統一性がない。種類を減らす方向で整理した方がよい。体育倉庫の横のコナラは、樹形も保たれており、雑木林の名残として残しておいてよい。
- ・敷地西側の中庭は、武蔵野の「山」として利用してきた名残があり、下草などを管理していくとコナラ主体の雑木林として、環境学習の場にもなる。

旭が丘通り

【イチヨウ並木（旭が丘通りの北側）】

- ・植樹マスが狭いことによる水分不足や、東側にある公園の樹木による日影などが原因で、東側の歩道のイチヨウは弱り、西側と比較して、葉が黄色くなっている。

【トチノキ並木（旭が丘通りの南側）】

将来的には樹種変更が必要。（なぜトチノキにしたのか、が不明なため）

- ・高木なので、そもそも電線の下に植える木ではない。「樹高詰め⇒横に広がろうと徒長枝をたくさん出す」の繰り返しで、現状は徒長枝を剪定する必要がある。樹種を変えない前提で言えば、管理にお金をかけるしかない。本数を減らしてはどうか。
- ・葉が大きいと、落ち葉が目立つ。管理も行き届いていないのか、最近の台風や強風の影響で、歩道の見た目が汚い。
- ・植樹帯のサツキの管理が全くされておらず、雑草も伸びっぱなし。
- ・街路樹は、修景効果を期待されているので、隣に公園の木があるのに、あえて街路樹がなくても良いのではないのか。低木だけでも良い。

街路樹全体に言えること

- ・街路樹は、間隔、樹種、高さ、他の構造物（建物や電線）との関係などのポイントを押さえ、設計段階から考慮する。全項目で満点の木はないので、「これを楽しみたい」という意思をはっきりさせ、デメリットも受け入れられる樹種を選ぶ。
- ・一定年数が経つと、樹木は管理コストが増えるので、いつまでも莫大なコストをかけて「枝を落とす」だけの非生産的なことに注力するよりも、目をつぶって入れ替えなくてはならない段階もある。本数整理、樹種選定、植替えなど。

台田運動公園

【サクラの「世代交代」について】

- ・ソメイヨシノはサクラで一番短命で、30～40年で最盛期、60年過ぎると老齢。今は50年前後で、現状を見てもまだもつので、これから10年は維持して、全体はある程度長い時間をかけて、植替え計画を作った方がよい。今後、何年計画で並木を更新するか、と並行して、何年のうちにこれをやる、という計画。管理上は枝が落

ちるので大変だが、急に弱るものでもない。

- ・下枝の枯れが早い。特に道に近い場所は巡視を行い、枝の重なりを除くのが一番の安全策。枝と枝が重なり、日光不足で枯れるので、改善すれば枝は健康になる。
- ・枝を落としているところから腐りが入っているので、その管理を前提にすること。
- ・本数が過密になっている部分は減らす、あるいは、枝があまりに重なっているところは枝を落としながら、時間をかけて入れ替えていくのが良い。また、弱っている、樹形が崩れているサクラは、周りとの関係を見ながら選択伐採し、植替えを検討。ただし、芯が極端に腐っているもの以外は、枝の管理もせずに「伐採」は控えたい。
- ・「桜並木」は、同じものでは再生しない。100年生きるものがあっても、数は限定的。
- ・管理は、根の踏圧対策が大切。生育条件は恵まれており、今は極端な傷みはない。
- ・嫌地現象もあるので客土する必要があるが、枯れた場所だけでも先に植えてはどうか。
- ・競合するムクノキ、ヤマグワ、エノキ、ケヤキは伐採して、サクラに光が十分当たるようにする。ササ刈りも必要。

郷土博物館

【中庭の林】

- ・本数が多すぎる。まずはコンセプトをもって、不要なもの、残したいものを計画的に整理し、本数管理すること。もともと武蔵野の雑木林を意識していたと思うが、曖昧になっている。植栽のコンセプトがよく分からないのが現状。
- ・もともと“箱庭”として作ったので、本当は10年に1回、木を植え替えないと。「植えた木は切るな」の意識も、場所によっては変えなくてはならない。

【名木・ザロンバイ】

- ・枝が混んでいるので、専門家の知見も取り入れて、透かし剪定が必要。
- ・この場所のメインの木なので、生育条件を整えた方がよい。奥のヤマモモによる日影、周りの低木が支障になっているので、整理したほうがよい。

市民活動センター

- ・南側の住宅寄りのサクラは、大きくならない樹種に植え変える。
- ・センター側のサクラは、枯れ1本を伐採すれば、間隔もちょうどよい。
- ・北側のシラカシ3本は大きくなる。既存のキンモクセイに合わせて植替えも考えられる。

⇒シラカシは、枝が広がって道路に出ていたので、そのコントロールは必要。全て切る理由もないが、定期的な管理を考え、3本でなく、2本でいいかもしれない。

キンモクセイの隣の1本を伐採すれば、キンモクセイの育ちも良くなる。

けやき通り

【ケヤキについて】

- ・本数が多すぎるので、個々の腐朽の進行や樹形といった健康度、枝分かれの位置（低いと枝別れ多数）を参考に、2本に1本くらいの割合で間隔を空けられるように、伐採するケヤキを選定する。街路樹なので、「安全・危険回避」の視点が大事。道路利用者の目線に立って考えて、信号の手前やカーブのケヤキは、信号などが見えなくなる危険もあるので、それも伐採対象を選ぶ判断材料として考えた方がよい。太枝が落ちるのも同様。
- ・基本的に木は大きくなると管理費がかかるため、やはり本数管理は避けて通れない。枝下ろしや強剪定では、問題が大きくなるだけ、お金がかかり続けるだけなので、いかに経費をかけず、かつ確実な管理をしていくか、計画的に考えていくほかない。
- ・御殿山緑地から東はかなり強剪定したが、詰めた分だけ多数の枝を出すため、葉の量もさほど変わっていない。強剪定を繰り返すなら、伐採を検討する。
- ・けやき通りの歩道の植樹帯は、もともとケヤキを植えるには狭すぎる。
- ・八小前は、御殿山緑地が道路を挟んでいるため、街路樹ではなく低木でもよい。

【植栽帯について】

- ・駅前のようにお店が多いと、必ず人が植栽帯を横切り、植栽が必ず踏まれる。ドウダンツツジのような低木があったほうがいいのか、あるいはタマリユウやグリーンプランツのツルクサなどで覆うか。今年の夏は特に暑かったので、草の処理がもう少し楽になるように、管理者のメンテナンスが楽になる方法を考えた方がよい。
- ・ドウダンツツジの場合、刈り込みがきれいにできているうちは良いが、2～3年すればツルクサやエノキが生え、ドウダンツツジよりも背の高い雑草が突き抜け、管理が大変。タマリユウやグリーンプランツのほうが、管理は楽だが、草の処理は大変。

現在の管理方針（案）の「管理手法」や「アクションプラン」の章も更新し、次回までに委員へ送付。内容は会長に一任され、会長と事務局で進めることになった。

《3. その他》

保存樹木の解除に関して、審議会に事後報告。境界際に植わっていて、台風21号の被害で倒れ、所有者が伐採・撤去済み。写真は今年の2月に撮影したもので、赤丸で囲ったように大枝が折れてしまうなど、以前から老木化が進行。

審議会の意見としては致し方なし、ということでした承を得た。

次回日程：委員の総意により、11月27日（火）午前10時から2時間程度予定。

以上